

# 1. 評価報告概要表

作成日 2007年11月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072000373
法人名	医療法人 橋会
事業所名	痴呆性老人グループホーム たちばなの家
所在地	群馬県渋川市北橋町上南室108-3 (電話) 0279-52-7030

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年11月13日

## 【情報提供票より】(19年 9月 28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	14人, 非常勤 8人, 常勤換算 10.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての,	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	定期往診代	定期処方薬
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 950円				

### (4) 利用者の概要(9月 28日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.25歳	最低	67歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人橋会 上之原病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

赤城山麓の閑静な場所で、道路の脇には菊が咲き綺麗な所だった。建物は、大きな医療機関と関連しているため整った建物である。母体である医療との関連で、利用者が安心して居られる場所である。共用空間は、十分な広さがあり居心地良く過ごせるようになっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題に対し、家族に写真入りで利用者の状況や行事などの報告に組み入れている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と職員は、評価について理解し、作成にあたっては管理者が中心になって取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。会議では、取り組み状況等を報告し、意見交換をしている。会議で出された意見を基に、食器を馴染みの物に変える等対応し、意見を取り入れサービスの向上に努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等の意見、不満、苦情は、管理者が窓口となり受けている。また、意見箱を設けたり、外部の苦情相談窓口についても説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の行事は、レクリエーション、地域の敬老会、保育園の運動会やクリスマス会に参加し、交流に努めている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、利用者の自尊心を大切にして生きがいのある生活を目指している。しかし、地域密着型サービスとしての役割が明示されていない。	○	地域との交流は行っているが、地域密着型サービスとしての役割を明示されていないので明記を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングにおいて、管理者や職員が理念を共有し、利用者に対しよりよい生活を支援している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事は、レクリエーション、地域の敬老会、保育園の運動会やクリスマス会に参加し、交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は、自己評価、外部評価について理解をし、外部評価の改善課題には、行事等に参加された利用者の写真を家族にお渡しする等の具体的な取り組みを始めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。会議では、取り組み状況等を報告し、意見交換をしている。会議で出された意見を基に、食器を馴染みの物に変える等対応し、意見を取り入れサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は、会議に出席したり、役員を引き受けるなど緊密に連絡をとりあってサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に家族等とコミュニケーションをとるように心がけ、また月に1回利用者の暮らしぶりや催しものなどの写真付きカードを、家族に渡し状況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満、苦情は、管理者が窓口となり受けている。また、意見箱を設けたり、外部の苦情相談窓口についても説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体の人事管理がおこなわれるため、職員の異動は多いが、利用者を受けいられるよう個々の状況にあわせて対応している。	○	異動を最小限に抑え、馴染みの職員による体制を整えることを期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協議会内での群馬県グループホーム連絡協議会研修、群馬県認知症介護実務者研修等の研修・会議に参加している。報告書を作成し、情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加しており、交換研修やネットワークづくりや勉強会を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	来所のおりに、利用者とトランプ、囲碁、将棋などしていただき、安心感を持ってもらうよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から「ありがとう」「すまないね」など声をかけてもらうこともあり、洗濯物たたみや掃除などを手伝ってもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望についてどのように暮らしたいかを理解し、ミニカンファレンスにおいて、個人歴等個々の状況を汲み取り本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く生活するために、責任者中心に各職種のチームで話し合い計画作成に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、利用者に計画の状況にずれはないか、利用者、家族、関係者と相談をして、現状に即した介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連医療機関と連携しているので、医療体制を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の馴染みの医師による継続的な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、特に対応していない。重度化した場合の対応は、家族の了承の下、関連医療機関で受け入れをしている。	○	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねないようにさりげない言葉かけの対応を行い、記録等の取り扱いについても事務所内書類保管用の収納デスクにて、管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日を、テレビを見たり、ソファや椅子で過ごしたり、自分の意思で自由に楽しく過ごせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をし、食後の下膳や食器拭きなどを手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に週2回であるが、希望によって、週2回や毎日入浴している人もいる。夏は、汗をかくのでシャワーでの対応をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの畑で野菜を作ったり、洗濯たたみや掃除など、出来そうなことに応じて役割分担し、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には近くを散歩して、外気浴などを行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、施錠の弊害について理解しているが、以前無断外出があり、安全性を最優先し、家族に了解を得て施錠している。	○	どうしたら鍵をかけないで済むのかを、検討していただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を、春・夏の年2回実施しており、秋は消防署立会いで防災訓練を、併設老人保健施設と病院と合同で実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量は、老人保健施設の管理栄養士の指導を受けている。食事量、水分量はチェックし、水分確保や栄養確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、ソファのある場所、テーブルと椅子のある広間、炬燵のある座敷など、利用者がそれぞれ過ごせる場所を提供している。広間には、季節の花や絵が飾っており、殺風景にならないよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたタンス、仏壇等が持ち込まれ、自分で作った作品が展示され、心地よい環境づくりに心がけている。		